

早場米

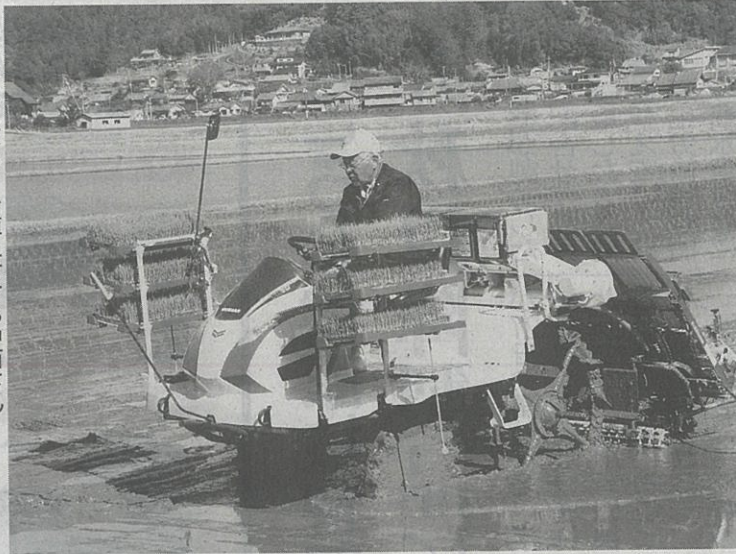
「あきたこまち」田植え

三重・伊勢 J A伊勢 県内トツプ切り

【三重・伊勢】J A伊勢三重南紀地区管内の紀宝町大里地区で27日、中西和益さん(76)が、県内のトツプを切って田植えを始めた。中西さんはこの日、水田約30㌔にハウスで育てた早場米「あきたこまち」の苗を植え付けた。同町では温暖な気候を生かして、中西さんを含む生産者2戸が90㌔で早場米を栽培する。

作業を終えて中西さんは「風が強かったが、無事に植えられた。低温傾向で苗の成長が遅れが見られたが、これから良い米がたくさん取れるよう頑張って管理していく」と話した。収穫は7月下旬を予定。収穫量は10㌔当たり8・

5俵(1俵60キ)を目標にする。
同J A営農企画指導グループの濱口修好副グループ長は「収穫まで台風や自然災害などの大きな被害がなく、順調に生育が進むことを願う」と話した。
同地区の早場米は、8月の盆時期の前に新米が食べられることから、贈答用に用いられることが多い。同J Aファーマーズマーケット「ほほえみかん」や購買店舗で販売する。



「あきたこまち」を植え付ける中西さん
(27日、三重県紀宝町で)